



パークハイアットパリ-ヴァンドーム「Park Hyatt Paris-Vendôme」は、オペラガルニエからヴァンドーム広場に向かう華やかな「ラベ通り」「Rue de la Paix」に位置する。著名な建築家エド・タトルが設計した現代芸術と洗練されたデザインの巧みな融合は、パリのパラスホテルとしての特徴を見事に演出している



ホテル館内の中心に位置するのが「Sens」で、トップライトの明るい雰囲気の中での朝食はお勧めだ。今までパリのホテルではなかった斬新な空間構成であり、スマートな清潔感が印象的だ



「ラベ通り」「Rue de la Paix」に位置する正面エントランス。仰々しさを押さえた控えめな佇まいは好感が持てる



館内パブリックスペースや客室に置かれた印象的なブロンズ像は、パリの女性ビジュアルアーティスト、ロゼリーヌ・グラネの作で、彼女の作品はパークハイアットのアイコン的な存在感として重要な意味合いを持つ



筆者 **小原 康裕**  
国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。  
1974年 Munich Re 入社。  
2001年投資顧問会社原健設立、  
代表取締役 CEO。  
JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント  
協会常務理事。  
SKAL International Tokyo、  
Professionnels du Tourisme 会員。  
JARC、日本宿泊施設関連協会  
アドバイザリーボードメンバー。

[www.jhrca.com/worldhotel/?cat42](http://www.jhrca.com/worldhotel/?cat42)  
[www.hoteresonline.com](http://www.hoteresonline.com)  
<https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16>

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。



館内中央通路の右手にスタイリッシュなレセプションデスクが並ぶ



ルームディヴィジョン・マネージャーの Mr. Gonzalo E. Morales と筆者

### *Park Hyatt Paris-Vendôme*

パークハイアットパリ-ヴァンドーム「Park Hyatt Paris-Vendôme」は、オペラガルニエからヴァンドーム広場に向かう華やかな「ラベ通り」「Rue de la Paix」に位置する。著名な建築家エド・タトルが設計した現代芸術と洗練されたデザインの巧みな融合は、パリのパラスホテルとしての特徴を見事に演出している。また、館内パブリックスペースや客室に置かれた印象的なブロンズ像は、パリの女性ビジュアルアーティスト、ロゼリーヌ・グラネの作品で、ドアノブや窓枠のハンドルなどの細工を含めると

館内には実に4854もの数に上る。彼女の作品はパークハイアットのアイコン的な存在感として重要な意味合いを持つ。

2011年5月5日、フランスの新しいホテル格付け制度が発足し、5ツ星のさらに上に行く最高ランク「Palace」が認定された。フランス全土で最初に8軒のホテルが発表され、パリではわずか4軒のホテルだった。「Park Hyatt Paris-Vendôme」はその4軒の一つに認定され、この発表はホテル関係者にとって驚きをもって迎えられた。Ritz Paris、Crillon、George Vなどパリの大御所ホテルが落選し、アメリカ系のパークハイアットが滑り込んだという事実は、後にリッツやクリヨンがパラスを目指して長期の大改装



暖炉「Cheminée」という名を冠したラウンジ「La Cheminée」はアフタヌーンティーが人気だ



美しいコートヤードに展開するテラスレストラン「La Terrasse」



シェフのジャン・フランソワ・ロケットの名を冠したミシュラン星付きダイニング「Pur」- Jean-François Rouquette



「Pur」- Jean-François Rouquette はオープンキッチンのスタイルで、キッチン内には特別の空間「Chef's Table」がある



メインバー「Le Bar」のカウンター席



メインバー「Le Bar」のエレガントなラウンジ席



パークハイアットパリ-ヴァンドームを代表するシグネチャースイート「The Vendôme Suite」。その名の通りヴァンドーム広場を俯瞰するテラスが特徴で、予約が取りにくい人気のスイートだ。ホテルは44のスイートを含む全155室を擁して2002年8月にグランドオープンした



シグネチャースイート「The Vendôme Suite」のゴージャスなベッドルーム



「The Vendôme Suite」の広々としたリビングルーム。くの字に曲がった梁構造が印象的である

へ進む原点となった。

パークハイアットパリ-ヴァンドームは44のスイートを含む全155室を擁して2002年8月にグランドオープンした。今までパリのホテルではなかった斬新な空間構成であり、スマートな清潔感が印象的だ。今回はホテルを代表するシグネチャースイート「The Vendôme Suite」をご紹介したい。その名の通りヴァンドーム広場を俯瞰するテラスが特徴で、予約が取りにくい人気のスイートだ。館内の中心に位置するのが「Sens」で、トップライトの明るい雰囲気の中での朝食はお勧めである。シェフのジャン・フランソワ・ロケットの名を冠した星付きダイニング「Pur」

- Jean-François Rouquette はゴージャスな大人の空間だ。その他、アフタヌーンティーが人気の「La Cheminée」、メインバー「Le Bar」など充実している。

現在、パリ市内の「Palace」認定のホテルは10軒を超えるまでに増えたが、2011年の最初の認定ホテルとしての自負は今も感じられる。仰々しさを押さえた控えめのエントランスは好感が持て、シンプルなインテリアの中にもエド・タトルらしい感性と洗煉された美しい空間が演出されている。彼はパークハイアットの放つコンセプトを深く理解し、ブティック型の都市ホテルとしての魅力を際立たせる術を備えているようだ。



リビングルーム内にある専用バーコーナー。柱や壁面にロゼリーヌ・グラネ作のブロンズ像が確認できる



ジャグジースタイルのバスタブ。バスルームは引き戸でベッドルームと区分できる